

山梨スマートドライバー

第8回ミーティング くるまとすまい

2014.

10.15 (水)

レポート



2014年10月15日、山梨県立図書館で、約25人の参加者を迎えて、山梨スマートドライバーの第8回ミーティングを行いました。今回のテーマは「くるまとすまい」。すまいを考えると、外せないくるまや、駐車場の存在。楽しいくるま生活を送るために、くるまとすまいのどんな関係が考えられるでしょうか。「すまい」を通じて、スマートドライブを空想しました。



吉野聡建築設計室
Yoshino.S Design Office

吉野 聡さん
Yoshino Satoru

プレゼンター

1971年1月17日、山梨県甲府市生まれ、43歳。東海大学工学部建築学科卒業。1993年～96年、株式会社ESSE(イズ)スタッフ。96年～2000年、吉野建築設計事務所 主任。2000年～、吉野聡建築設計室 室長。主な受賞歴 山梨県甲斐の家コンテスト 1999年入選、2000年 優秀賞。モータースポーツは大好きです。学生の頃にミニバイクレース日本一になったことがあります。そして、車でサーキット走行も!! そこから得た安全運転・くるまとすまいの提案も!!

【吉野建築設計事務所の沿革】1973年3月 創業開始、吉野建築設計事務所。2000年5月 吉野聡建築設計室に改め現在に至る。2009年6月 山梨県甲府市徳行3-3-25に新社屋完成。1級建築士1名。2級建築士1名。事務スタッフ1名。
<http://sekkei-y.com>



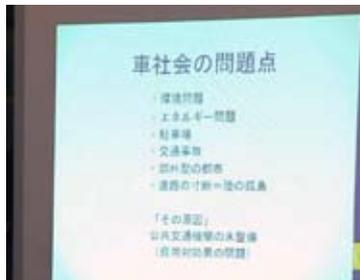
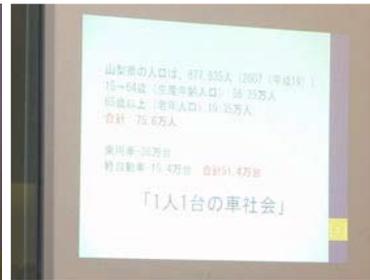
趣味はモータースポーツ 全国大会で優勝経験も 山梨では、すまいの設計に くるま、駐車場の存在は重要

吉野さんは甲府市で建築事務所を経営されております。車も好きで、営業車はBMWのオープンカーだそうです。多忙なため、車の移動時間も楽しみたいと考え、好きなオープンカーを営業車として使っているそうです。

学生時代はモータースポーツに魅了され、ミニバイクレースでは全国大会で優勝し、海外のレースにも参戦したそうです。大学時代には車でのサーキット走行も体験したそうです。

山梨県の人口は約76万人。車の保有台数は約51万台。車は一家に1台は当たり前です。車社会の問題点は環境問題、エネルギー問題、駐車場、交通事故、郊外型の都市、道路の寸断＝陸の孤島になる危険性…などがあげられます。公共交通機関の未整備が原因です。

地方では住まいの設計を考えると、駐車場のすまいの関係を考えることは重要なテーマです。



生活に欠かせないくるま すまいと駐車場のデザイン くるまを大切にすれば、 運転にやさしさが生まれる

まずは、吉野さんの自宅兼事務所をご紹介いただきました。建物は通常は敷地の端に寄せて配置するようですが、吉野さんは建物を敷地の中央にレイアウトしたそうです。住まいはライフスタイルの変化に対応できることが理想だそうです。駐車スペースを確保しながら、将来は増築しやすいように敷地を空けておいたそうです。また、現状、庭となっているスペースも車が出し入れできるようなレイアウトになっているそうです。

吉野さんの自宅兼事務所を参考に、次は参加者にガレージの設計を考えてもらいました。車と住まいとの動線を考えながら、レイアウトを描いてもらいました。

最後に「くるまとすまいは密接な関係」と吉野さん。すまい、生活を大切にすることは、くるまを大切にすることにつながります。くるまを大切にすれば、運転にもやさしさが生まれます。



最後に、参加者全員で記念撮影



第8回ミーティングに集まって頂いた皆様、ありがとうございました。モータースポーツが好きな吉野さんだからこそ、発想が生まれた「くるまとすまい」。すまいと駐車場をデザインするというワークショップも楽しみながら、さまざまなアイデアを皆様から発表していただきました。いつも山梨スマートドライバーを応援して頂いている皆様、ありがとうございます。「おもいやり」を増やすことで交通事故を減らす。これからも山梨スマートドライバーをよろしくお願いします。



ご参加、ありがとうございました。

